

おたがいさま

松尾 智晶

MATSUO Chiaki

京都産業大学共通教育推進機構 准教授
専門分野：キャリア開発、キャリア教育
キャリアカウンセリング

略歴

同志社大学経済学部卒業後リクルートキャリア、富士ゼロックス等を経て、人材採用支援コンサルティング会社の起業に参画し取締役に就任。結婚後退職して企業・行政・大学を対象に、キャリア・メンタルヘルスケア・コミュニケーションの講師として独立。働きながら慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科に通学し、修士号を取得。2007年より県立広島大学特定任用准教授、2011年より京都産業大学全学共通教育センター特定任用准教授、2015年より現職。2011年にNPO法人キャリアプロジェクト広島の立上げに参画し、現在は顧問。京都少子化対策総合戦略会議 委員。日本キャリア教育学会、大学教育学会、日本産業カウンセリング学会、初年次教育学会会員。

My Hobby

読書。居心地のよいお店で、飲食と会話を愉しむ。美術館・博物館で、理解できるものやできないものに触れる。宝塚歌劇と歌舞伎を観る。旅行先でその町のひとと同じように歩き、買い、話し、過ごす。何度も読み返せる本と漫画を探して、手元を集める。鴨川の野鳥とアイコンタクトする。

最近の主な論文・評釈

- 同一科目・複数クラス開講科目の初年次教育の改善活動：データに基づく「自己発見と大学生活」の改善を例として
中沢正江、大谷麻子、中西勝彦、中西佳世子、松尾智晶、松高政、東田晋三、鬼塚哲郎 高等教育フォーラム第05号 p.23-32 31 Mar., 2015
- 課題解決型授業における満足度と教育成果との関係
伊吹勇亮、松尾智晶、後藤文彦 高等教育フォーラム第04号 p. 9-16 31 Mar., 2014
- 「活動あって学びなし」の検証：小学校から大学までのキャリア教育の接続に向けて
松本高直、松尾智晶、伊吹勇亮 高等教育フォーラム第04号 p. 17-28 31 Mar., 2014
- 初年次キャリア形成支援教育科目「自己発見と大学生活」キャリア科目担当学生ファシリテータ活動について
大谷麻子、中西勝彦、松尾智晶 高等教育フォーラム第04号 p. 71-80 31 Mar., 2014
- 人事実務家教員による京都産業大学PBLの実績報告
中尾憲司、足立晋平、松尾智晶、木原麻子 高等教育フォーラム第04号 p. 81-88 31 Mar., 2014
- 授業実践者のヒアリングデータに基づくPBLルーブリックの開発：京都産業大学PBL科目を例として
松尾智晶、中沢正江 高等教育フォーラム第04号 p.37-44 31 Mar., 2014
- キャリア科目受講満足度とモチベーション向上に関する考察—2012年度「自己発見系科目」受講生アンケート結果より—
松尾智晶 高等教育フォーラム第03号 p.21-30 31 Mar., 2013
- キャリア教育の効果と本学の試みに関する考察
松尾智晶 高等教育フォーラム第02号 p.17-24 31 Mar., 2012

研究者になってよかったと思うこと

「ほんとうにそうかしら？」と、ちどちどって考える時間を得られたこと、自分の考えを論理的に述べあえる自由を得たことです。真の意味で、ひとは平等なのだ確信できているのは、研究者になったからだと思います。新たな知を生み出す活動に携われていることに、責任もやりがいも感じています。

座右の銘

「おたがいさま」(モットイナイ、に続く世界の共通語にしたい)

研究とプライベートの両立で工夫していること

キャリアの世界では、仕事と私的な時間を相対する構造としてとらえるワーク・ライフ・バランスから「ワーク・ライフ・インテグレーション(統合)」の考え方に移りつつあります。日常で触れる情報は、すべて「キャリア開発」につながっています。両立というよりも、統合しています。出会う全ての方のお話しが、キャリア開発に関わる貴重な知見となっています。

人生の転機になった一冊／学生に薦めたい一冊

宮城谷昌光「晏子」 著者の古代中国歴史小説は、ひとの生きざまや組織におけるひとのあり方の多様性を教えてくれます。必ず、自分に似た登場人物が見つかるこの作品は、自分の生き方を広く大きな視点でとらえなおすことが出来て、孤独感や閉塞感がふつとび勇気を得られます。

未来の研究者へ一言

自分が、生涯、追い続けるテーマがみつかり、それを追いつけることを職業にできるのが研究者だと思います。研究を深め、同時に、研究を社会とつなげてゆくこと、ひとに伝えてゆくことがもとめられる現代社会。対話と議論を、共に愉しみましょう。

研究テーマ

ひとが生涯、安心して、周囲の人や環境と調和しながら自分自身が満足できるキャリア形成をし続けられる支援や制度、教育プログラムを考え構築することです。キャリアは、ライフキャリア(暮らす)とワークキャリア(働く)の両方を含みます。自分にとってよいキャリアを形成するには、まず自分自身を理解し肯定することがスタートです。キャリア教育は、心理学・教育学・経営学・社会学が重なる、学際領域のテーマです。進路指導、職業教育を、今後の研究対象に加えます。

研究の道へ進んだきっかけ

ビジネス社会で働き、ベンチャー企業の起業や独立を経験する中で、さらに深く個人のキャリア開発やキャリアカウンセリングを理解したいと思ったのがきっかけです。誰もが、安心して、生きてゆきやすい社会をつくっていく一助になるためには、自らの経験や社会で流布されている一般論だけに依るのではなく、その成り立ちの根底から理解し、考え直すことが必要だと考えました。